

山梨県立美術館協議会第1回 会議録

1 日 時 平成21年11月6日(金) 午後2時～午後3時30分

2 場 所 山梨県立美術館 総合実習室

3 出席者

(委員) 輿水 勉 小川美千子 齊籐武士 大村 智 金丸康信 鈴木郁子 植松増美

宮永三知子 新野貴子 佐藤ちか子 萩原公子

(美術館) 白石館長 竹井副館長 他4名

(教育委員会) 佐藤教育次長 三枝学術文化財課長 他2名

(SPS やまなし) 伊藤総支配人 岩井支配人

4 会議次第

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 教育次長あいさつ

(4) 館長あいさつ

(5) 出席者自己紹介

(6) 議事

(7) 閉会

5 会議に付した事案の件名

(1) 平成20年度事業報告等について

(2) 平成21年度事業等について

6 議事の概要

(1) 平成20年度事業報告等について

(2) 平成21年度事業等について

(議長) 事務局の方から説明をしていただきましたが、お話の内容で何か御質問等ございますでしょうか。私の方から皮切りに質問させていただきますけれども、7頁に収入と支出の割合で収入歩合が10～12%となっているが、他の公立というか県立美術館もこんな数字なんでしょうか。

(総務課長) 申し訳ありません。手元に他館の資料がございません。

(館長) 他館の資料はありませんが、当館は健闘していると思います。というのは県立美術館は、年間を通して常設展の入館者が多く、他の県立美術館は、特別展にはたくさんのお客さんが来られるけれども、常設展には、ほとんど来られない。

特別展にはたくさんのお金をつぎ込んで開催するものですから、収入歩合は低くなると思います。はっきりとした数字は確信がもてませんが。

(議長) ありがとうございます。他に何かありますか。もう少し委員の先生方考えておいて頂けると思うんですが、山梨の美術館大开展ですが、私は非常に良いことやってくれよかったと思ってるんですけども、この展覧会に来てから私の方の韮崎までこういう美術館があることを知ったと来て下

さる人がありました。おそらく、私が会った人以外にも大勢来ているんじゃないかと思います。県の美術館の情報もそこで提供できたということで、非常に良い企画だったと思います。

(委員) 質問というか感じを申し上げたいと思ってます。たまたま先月、私も妻も個別にそれぞれ東京の友人を二人ずつ招きまして、目玉としてこの県立美術館を胸を張って見せたんですけど、私の胸張った以上に感激しておりまして、だいたい一般論として山梨ってのは存在感があんまりないので、富士山と葡萄くらいしかないんですけど、こんな凄いところがあったのかしかも十何年にミレ一相当な話題を読んだっていうことをかすかに記憶くしているけど現物を見せてもらって納得したよと大変感激して帰りました。ガイドさんを私があらかじめお願いしてありまして、ガイドも素晴らしい説明だったって感謝してまして、私も自分のことのように嬉しく思ったこと、まず、ご報告ときます。

私もこちらの協議会に関わって4・5年なんですけども、さっきの報告を聞いて、雑ばくな感想として、随分多色刷りになった活動だなと、ひとつひとつ色が増えて多彩な活動になったなど、様変わりになったと言えば、ちょっと言い過ぎかもしれませんが私の頭の中では断続的に年毎に上がってっているような気がしてほんとに喜ばしいことだと思ってます。感想はそれだけにして、ちょっと不満な点を二つ程申し上げたい。

1つは美術館につきもののレストランなんですけど、ちょっと問題があるんじゃないかと思ってます。具体的に申し上げますと、メニューで「これ欲しい」と言ったら、「それは文学館の喫茶のメニューです。」って言うんですね。なんでそんな嘘があるんですかと、例えば、あんみつなんかがそうなんですよね。どう考えてもおかしいですよ。それから今日の出来事は、ランチタイムで一番人気のものを友達と一緒にと食べに来たら、「売り切れた。」と言われた。それが12時なんです。ランチタイム11時~15時までって書いてあるんですが12時ちょっと過ぎなのにもう売り切れと言ったら、どうも変だな。「そうですか」と言って、一回りしてまたその人が来たんで本当に売り切れなのと聞いたら、「実は朝から1つも無いんです。」って言うから、「どう言う事」って言ったら、「実は昨日、団体が来て肉が全部無くなっちゃったんです。」あ~そうか、だったらメニューに品切れとかなんとか書いておいてくれりゃー良いのに私の方がなんか無い物を注文しちゃって申し訳ありませんって謝るような、これサービス業じゃあ無いよなど、こういう感じがしたんですね。それから、普通のレストランですと、注文に来るときに、お盆に水をもって伝票を持って来ますよね。ところがここはセルフサービスじゃあないんだけど「水はあそこに行って取ってきてください」って言うんですよ。だったら、テーブルの上にポットと水を置いたらどうですかと、そしたらお代わりする手数料もかからないし、自分もやるし、バイキングだったらみんなが行くからいいんですけど、バイキングじゃあない客も居るんですよ、でも、「水はあそこに行って取ってきてください。」ちょっとこれは何かサービス業じゃあないのかなあと、自営でやってるお店と違ってこういう特殊な施設の中の経営ってそれなりに難しい点があるのかもしれませんが、お客はレストランとして来るわけですから、観た後であるいは、これから観るっていうときに食事したり、コーヒー飲んだりするのですから、サービス業の範疇でお客様は接すると思うんですね。非常に細かいことなんですけど、これは飲食業では普通あってはならないことなんです。絶対にね。そ

れが平然として行われている。水のことと、文学館のメニューのことは前にも言ったことがある。2度言ってるんですが取り合ってくれないんですよね。これも、委託事業なのでどっかでチェックしていただくか、私が1人で気がついただけなのでそれだけなんで、おそらくミスの世界では1つミスがあったら300くらい有るんだってこと言われてますから、その位の覚悟で、一度チェックされたらいかがと思いますね、しょっちゅう来るところではないので、みんなあまりいきりたって言う人はいないと思いますけども、ちょっと変だなっていう感じがするんですね。

もう一つはテント張って、あれはあれで県内の人がアートをすることで、非常に大きな意味があることと思うんですが、マイナスも大きいなあ。というのは車なりバス降りて門を入れてきて、美術館と文学館だなここから非日常的な空間が目の前にあらわれるなあという矢先に、汚らしい感じの一見汚らしい感じなんですよ、バubberと雑然としたテントが並んで、なんだこれは来る場所が違ったのかなって感じで、非日常的な空間がこれから始まるだろうなあ大きな期待をものすごく裏切るものだと思うんですね。そういう催しは必要だと思うんで、どこか場所を工夫するとか、なんかしないとせつかくの気持ちが、帰りがけに台無しならまだ良いけど、真っ先にちょっと気持ちが攪乱されてしまうってのは、私だけじゃあないんじゃないかなあと言うような気がしないでもないんですけど、一度ご検討していただく必要があるんじゃないかと今後のこともあることですから、そんなことを率直に意見として申し上げておきます。

(議長) ありがとうございます。その辺を1つご検討いただけたらと思います。他に何かありますか。

(SPS やまなし伊藤総支配人) レストラン関連のご指摘に関しては、今回お伺いしました内容をレストラン運営しております共同事業体の桔梗屋様の方にお伝えいたしまして、直ちに改善するように依頼をしたいと思います。特にセルフサービスかそうでないのかは、私も気になっておりまして、一度、店長様とか社長様に申し入れをしておりますが、どうも今御指摘のように改善をみていないことも、さらに気づかせていただきましたので、至急対応させていただきます。あと、メニューのデザートのございます、一度私の方もご相談をさせていただいておりますが、桔梗屋様の方の御説明と致しましてはレストランの席数が非常に少ないのでお食事をご要望される方とデザートをご要望される方で、お客様には御手数になるんですけども、文学館のカフェの方を今年の4月からリニューアルして桔梗屋様の方で同時に運営していただいております、そちらの方でゆっくりと庭園を観ていただきながらデザートを御提供したいということで、メニュー展開を両方で分けて御提供させていただいております、お陰様でお客様にも好評であるとは聞いておりますが、同様にご要望も高いメニューの展開もあるかと思っておりますので、再度検討してもらいまして、どちらでも御提供出来るような形を工夫させていただきたいと思っております。御指摘ありがとうございます。

(議長) ありがとうございます。他に何か。

(学芸課長) テントのご意見についてですけども、そういうお気持ちのお客様が先生以外にもたぶんいらっしゃるんだろうなというのは、今は、クラフトの市が出ておりませんで、予算の関係もありまして、本当は1回毎にテントを撤収すればこんなことないんですが、今は、物置みたいになっちゃってるもんですから、余計心象が悪いんだと思うんです。御配慮いただいたように、事業として

は継続もしたいし、どこか場所を考えながら、貴重なご意見を頂きましたのでやり方を考えながら、広く、幅広い美術館としての魅力作りということで前向きに検討させていただきたいと思います。ありがとうございました。

(委員) 美術館ボランティアについてお尋ねしたいと思います。いつも美術館に参りますとボランティアさんがいらっしゃって、素晴らしい美術館だなと考えたりする訳なんですけど、実際には何名の方がいらっしゃって具体的にどのように指導されて、活用されているのというような、報告も欲しいなと思っております。また、先日友人を伴って美術館を案内させていただいたんですが、その際ボランティアさんを利用して絵を鑑賞されてるグループがございました。その際に、ミレーの絵の前で高笑いをしたり、それから大きな声で解説されている様子を見てまいりますと、心が乱れるといいですか、折角ミレーを鑑賞しに来た友人に大変悪いな、というふうに思っておりました。実際のところ、ボランティアさんがどのような形でか活動されているのか報告よろしくお願ひします。

(学芸課長) 先ほどご指摘がありました解説協力員を指導しておりますので、私の方からご説明させていただきます。本日現在、協力員の人数は 122 名のボランティアさんがこの美術館で活動しております。内訳でございますけども、まず入館して参りますと最初の処のカウンターで仕事をしていただいているインフォメーション部門があります。一般ボランティアさんという言い方をしているんですが、ご案内や身障者の介助がメインになります。専門的な仕事をしていただいているご指摘があった解説協力員、解説部門、それから図書資料を整理していただいている図書のボランティアさん、それから、情報や記録・映画会・ビデオの操作等をやっているボランティアさんが 1 つあります。それからあと、年間を通して実技講座を開催しております、絵を書いたり様々な実技をやっておりますが、それを補助する担当の部署が実技講座のボランティアさん、それと画像でも紹介しました年間たくさんのワークショップを開催しておりますが、そのワークショップの補助をしていただいている専門のボランティアさんと全部で 6 種類のボランティア活動が現在行われております。で、その高笑いという風な具体的なことでご注意をいただいたと認識をしてるんですけども、たぶん静かに通常は観る場の雰囲気壊してしまったというのは、たぶん今ご指摘があったとおりなんですけど、解説協力員は現在 23 名ですか、私は、いずれも優秀でベテラン揃いだと自負しておりましたが、長いことやっておりますとどうしてもお客さんのお気持ちに合わせて、歯を見せて笑ったりしまったりとか、いうものも本人は多分悪気があってやっている訳ではないのですが、私も常日頃から子供達への対応、中高年への対応、身障者への対応いくつか分けて研修させていただいておりますが、ベテランになるとその幅も広い分どうしてもサービスが先に出てしまって、ピタリということが多分決してその方はふざけているわけではないのですが、一般の皆様にはそういうふうに目に映ってしまったのかなというところがあります。なので、ここら辺も改めて大きな声を出しすぎて、常識的な美術鑑賞という状況がお客様方に不快な気持ちを与えないことがどんなことかというふうなことも具体的な研修の中で行っていきたいと思ひます。研修の回数でいいますと一番厳しい研修を課しているのが、この解説部門ですので、ちょっとした行き違いみたいな説明になってしまったのかもしれませんが、改めて貴重なご意見今後の指導に役立てていきたいと思ひます。ありがとうございました。

(委員) 今、向山課長からも解説についてちょっとお話がありました。私は解説もインフォメーション担当しておりますので、一言お話しさせていただいてよろしいでしょうか。

協力会といいますと美術館に協力しましょうという会なんです。美術館の運営には喜びを持ってみんなで協力して美術館を大成させましょうということで、立ち上がった協力会なんです。平成7年に向山課長を筆頭に、ご指導を頂きながら解説部門が担当として発足しました。その中で今23名とおっしゃっていただきましたが、新人研修というのは1年間研修でカウンターに立ちません。ミレーの事はもちろんですけど山梨県立美術館にふさわしい研修をしていただいております。そして、6ヶ月間は先輩に付いて中の解説を実習します。それからカウンターに立ちますので、すごく厳しいんです。どなたにも出来るものではないと、私も自負しております。先ほどもおっしゃいましたようにもっと大きなお声でお話してくださいと言われる方が多いんですよ。小さい声で私達は話させていただきますから、出来るだけ近くに寄ってくださいって、本当に神経を使います。そして、ニーズに合わせた解説を心掛けておりますので、先ほども植松先生からも解説お願いしたら良かったよとお言葉を頂いて、本当に嬉しく思いました。それくらい私達は慎重に慎重を重ねて活動しております。その辺をご理解いただければと思います。インフォメーションの方ですが、開館から同時に活動しておりますので、そこでは無駄話はしてはいけないということで厳しい指導を頂いておりますので、なかには開館当時からあまりお話しできなかったよという方達もいますので、昼食・3時の休憩時間だけ交代で、カウンターを空けます。誰もいないという事はいたしません。全て時間を計りながら、私達も誇りを持って活動しておりますので、そこに宮永さんもいらっしゃいますけど、宮永さんも同じ気持ちだと思います。30年間私も解説の方は平成7年ですけどそれ以前から協力会の方に関わってまいりましたので、今、解説のリーダーをさせていただいておりますけれども、皆様にお伝えすることは沢山ありまして、いつも研修・研修で朝も9時から半日研修いただきますよね。それは、学芸の先生方から特別展そして常設展示替えがあったとき、そんな時は講演会これは私達は必ず出席しましょうと義務づけられますので、率先して研修に参加させていただいております。絶対に間違えたことは皆様にお伝えしないという約束の基に、知らない事は知らないでごめんなさいと、謝りますよね。そういうことで、県立美術館行って解説してもらったらこんなこと聞いてきた。それがまったくの嘘だったということになりますと、大変なことになります。知識をお持ちの方達も沢山いらっしゃいますので、その方達にもニーズに合わせて解説をしなくては行けませんので、大変緊張しております。私もこんな説明をさせていただきながら、ひとつSPSさんの方へもお願いしたいことがあります。ついぞと言ったら失礼になりますけど、今、向山課長からも沢山の解説の依頼が入っていますよということで、今、本当に嬉しい悲鳴をあげておりますのでね、みんな1日に少なくとも2、3件の解説はさせていただいております。多いときには10件、目の見えない身障者の方達にも手で観るミレーを向山課長からも指導いただいたんですけど、それらも美術館には縁のないと思ってた人達にも、私達は手で観るミレーでご案内させていただいてます。先日も、団体の中に4組の全盲の方達が入って参りまして、

是非お願いしますということで、朝行きましたらその依頼がありました。私がちょうど当番だったんですけど、私1人でも大勢の4名の方達をご案内をすることは、とても大変なことなんです。空いてるお部屋をおかりしまして、手で観るミレーを用意させていただいて、盲導犬をお連れの方もいらっしゃいましたので、急遽、朝、動員しました。そして、朝早く飛んできていただいて、お手伝いをしていただきながら、対応させていただいて喜んでお帰り頂きました。私達も心から、お客様に楽しんで喜んで帰っていただきたいという気持ちで皆さんと一段となって活動しております。ですからたまたまそういうことをお目にかかったのかなと思いますけれど、それはめったにあまり無いことではないのかなと、私は自負しております。団体の中にも色々ありますので、本当に観たいという方ばかりがいらっしゃる訳ではないですよ知らないで連れて来られて降ろされてここに来ちゃったという、大変失礼な言い方かもしれませんが、そういうお客様も何組もいらっしゃいます。そういう方達には本当に心からこういうことですから、大きな声は出来ませんからということで、最初からお願いをしながらいくんですけど、どうしてもお客さんの中にはそういう風に大きな声で笑ったりする場合も在るかもしれません。ですから、周りの方たちにご迷惑をおかけしないようにという配慮はずいぶんしているんですよ。ですから、その点は理解していただければと思います。で、もうひとつ先程 SPS さんの方へも依頼の有りましたときには、是非私どもにも、協力会の方にこういう依頼が有りました。大久保理事さんを通して依頼の予約があったときにはお話しさせていただきますと、予め動員も出来ますので是非そんなふうにお願いであればありがたいな、と思っております。朝行って急に団体の100人とか80人なんてありますときは、一人では対応できないときがありますので、学芸の先生達にもお手伝いしていただくこともありますけれども、

もう一つ宜しいでしょうか、長くなって申し上げないんですけど、アートツアーというのが県立美術館・県立文学館でこんな素敵なチラシをこの間ここで見させていただきまして、全然私どもにお知らせがないものですから知りませんでした。そして、土曜日、日曜日、祭日にあるということでしたので、私も1団体対応させていただきましたけれども、コースとして、Aコース・Bコースありまして、Aコースが11:20、Bコースが14:20からということで30分、30分だそうですねえお聞きしましたら県立美術館の方へいらっしゃるには、丁度お昼になるんですね~12時近くなりますし、そして午後の部は3時になりますので、丁度解説の休憩の時間に入ってしまうんですけども、その辺を考慮しながら私達も対応させていただいておりますので、そういう時間帯をちょっと考えていただいたらありがたいかな、と思っておりますので、そして、小川さん知ってるのこういうことがあるの知っているのかっということで、協力員の方達からも電話をいただきましたけど、私も何も存じませんでしたので、じゃあまた確認しましょうね~ということで、何かありますと連絡網が作っておりますので、すべてリーダーから発信しますので、連絡網で皆さんに流しながらこんな風な形でということ解説の場合もインフォメーションも他の担当の人達もそれぞれが、お知らせをしておりますので、ですから、徹底的には皆様にお知らせが行っていると思いますけど、

中にはお休みして急に来たりとかそういう方たち場合には、それは出来ないことがあるかも知れませんが、是非私達は心においてプライドを持って協力会という中で、協力をしておりますので、ご理解いただきたいと思います。大変長くなって失礼いたしました。

(議長) ありがとうございます。協力会あるいはボランティアの皆さんの御活躍の様子がよくわかりました。ありがとうございます。他に、どうぞ。

(委員) 先程指定管理者になってからの経過やなんかもお聞きしたんですけども、入館者の面からも非常に順調に増えているような状態で、指定管理になってからですね、美術館の運営そのものがうまく行っているように感じるんですけども、私達みたいに作品を発表する立場で借りている方からですね、ちょっとその辺でいくつか気になるところがありまして、お聞きしたいんですけども、P3のSPSの組織体制の中での、たぶん施設管理の部分だと思んですけども、30年間美術館の一般展示室をですね、借りて発表してきてるんですけども、ここ4月からですね指定管理者になってからSPSの管理の方に移行したんですけども、そのために、今まで使っていた人達が30年間の使い方と借りてたんですけども、いくつかのですね、今度のSPSの管理になってからですね、トラブルというかですね、借りてる方との間でいくつかありまして、私も現にそういうことに立ち会ったこともあるんですけど、実は、展示する時のパネルの移動とかですね、それから、A室B室を区切ってあるパネルですね、これが非常口に1箇所B室の方に非常口があるために、A室とB室を区切ることが出来ないと、いうことで一度トラブルがあったみたいですし、それから、パネルの移動、これは今までちょっとあいまいになっていたのかもしれませんが、パネルの移動は今まで借りる人達が移動していたんですけどもね、勝手に移動しては、パネルに手をつけてはいけないと、移動の時には管理者に申し出て移動さしてもらおうと、いうことでもってそれに対応の仕方がですね、感情的にいろいろ言われましてですね、そういうことで幾つか私の耳にも入ってきてますし、私も現にそれに立ち会ったこともあります。それから、展覧会を開催している間に報道関係でテレビとかですね、取材に来るんですけども、今までは別に許可をとったりとかそういうことなく取材に来られたんですけど、今年開催した私達のグループ展のとき取材に来ましたら、結局そこを通してないために、取材に来た人達に帰ってもらうというように、対応をされたんですね、それで帰ってもらっては困るということで、話し合っただけのまま取材をしてもらったんですけども、今までは、そういうSPSみたいなところを通さなくてもですね、取材は自由に出来たんですけども、その辺も管理者を通さないと取材も出来ないようなことにもなっているらしいんですけど、そういうことであれば、展示室を借りる時の申し込み時点で、そういうものを明記されておかれるか、控え室かなんかにそういうものをはっきり書かれて置かないと、今までこういう風な形に組織になっていることは借りる人達、まったく知らないんですよ。私は去年こういう会議に出ていますからそのことは、解っているんですけど、おおかたの人はそれ知らないで30年間借りているような状態で借りると、そこでいろんなトラブルが起きているのが、現実なんですね、ですからその辺をちょっと旨く対応していただきたい。まあ、7ヶ月経ちましたのでこれから来年の3月ま

で借りる人達の間で今のような状態で行ったらまた、そんなふうなトラブルが起こるんじゃないかと思うんですけどね、その辺を是非なんか考慮して頂きたい。

それから今度学芸の人にちょっとお願いなんですけど、特に版画にあるんですけどもキャプションですね、作品の下に出してありますキャプションが、まあ、版画の場合非常に難しいんですけどもね、特に技法ですね、それが、時々間違っていることがあると、云うことで、これ専門以外の方はそれほど気がつかないかもしれないんですけど、僕はやっぱりそれを見ると気になってしょうがないものですからね、それから、やはり見識のある方達も見に来ますんで、そういうのがあるとやはり恥ずかしいということがあります。

それから、もう一つ気になってますのが常設やなんかに寄贈された作品だったと思うんですけども、なんか額装がですね非常に雑な扱いをされているとか、中にゴミが入っていたりとか非常に見苦しい額装の仕方ですねそういうなことがありましたので、その辺を展示する限りはその作品を非常に良い状態で見せれるような、そういう配慮を心掛けて頂きたいと思うんですけども、その辺をよろしく願いいたします。

(議長) 事務局どうですか、時間があんまりないのでかいつまんで、よろしく願いします。

(SPS やまなし 伊藤総支配人)

展示パネルの移動の件に関してでございますが、私どもも4月からやらせていただいて、ギャラリーABCとも非常に大きな1枚毎のパネルでございまして、危険を伴う箇所それから非常に重いです。長年使用されていますので、かなり老朽化している部分もございまして、今まではご協力いただいて皆様でどんどん運んでいただいたりということもあつたんですが、再度点検をさせていただいた際に、ネジが緩んでいたりと、あとはストッパーがもう止まらないので、担当者が出向かないと固定できない、その状態で絵画等掛けてしまいますと、非常に危険を伴うということが解りましたので、皆様にご協力をいただいて必ず係員に声をかけてから移動していただきたいと云うことでお願いしておりましたが、私共もなれていない4月からでして説明不足の点多々あつてご迷惑をお掛けしたと思いますので、月1回の説明会等々の際にご説明を再度させていただくとか、ご指摘のありました様に控え室の中に表示をさせていただくとか、お貸しさせていただく初日の日にそういうご説明をご担当者させていただくということで、すぐさま、改善をさせて頂きたいと思いますのでご理解を頂きたいと思います。

また、取材の件に関してはちょっと私も事實は解りませんが基本ご取材を頂くことをお断りするという事は、私の認識でもありえないことだと思いますので、ただ、一般の方と区別するという意味で取材という腕章をお渡しする場合がございますので、それも同様に控え室の方にそういう場合には事務所に申し出て腕章をお渡し下さいというようなお願いをしたいと思いますので、併せてご協力を頂ければと思います。

(議長) じゃあ2つ目後の方

(学芸課長) 齋藤先生の作品の中にゴミが、ちょっとチェックが出来なかったことがあります。あつてはならないことだと思いますので、このことに関しても今後注意を払っていきたく

思います。ありがとうございました。

(議長) 私の都合であんまり長く出来ないんですが、後一つぐらいは大丈夫だと思うんですが、どうぞ

(委員) 教育普及活動の件で小学校の教員という立場で、皆さんにイメージして頂いたり今後も引き続き活動をしたいという願いをしたいと思います。春に本校2年生 60名くらいが遠足でこちらに伺いました。歩いてきたんですけど、歩きながらこの子供達が行ってミレーが解るだろうか。他の人達に迷惑をかけないだろうかととても心配だったんです。で入って丁度このお部屋で絵の鑑賞の仕方、マナーを学びました。その解説の方達がお二人だったんですけど、ボケと突込みみたいな感じで子供達をすごく引き込みながら、上手にマナーについて教えてくださいまして、先ほど小川委員さんのお話でも解りましたが、解説の方が大変努力なされてるんだな、ってことが解りましたけれども、子供達まだ小さいので、美術館入門期に当たるんですが、大事なことを教えていただけたなっていう風に思いました。絵の鑑賞のときも、ポイントの絵を中心に解説をしていただいたんですけども、小学校2年生にも解る説明をしていただきまして、ありがたく、とても良い経験になったと思っています。その後体験学習ということでひとりひとり全員が簡単な版画をしました。短時間だったんですけども、指導の方たちが手際よくしてくださいまして、どの子の作品も芸術性に富んでいるように、出来上がったときは見えました。とても、それぞれが満足して私も作りましたけど満足して、帰ることが出来ましたので、こういう体験活動っていうのは、大変大事だっていうふうに思いました。多分子供たちは美術館っていう硬いイメージが少し柔らかくなり身近に感じられたんじゃないかなっていうふうに思います。これで、芸術に目覚めてそちらの方面に進んでくれる子が中にいたら嬉しいなと思いながら、そうはいかなくても自己開発が出来たり、豊かな心の育成が出来たりすれば、生涯の学習につながっていくんじゃないかな、子供を育てていくってのはとても大事なことじゃないかな、っていうふうに思いました。また、入館者数を増やしていくっていう意味でも子供たちに興味をもってもらってことは、ひいては家族にっていうふうになっていきますので、是非PRを上手にさせていただいて学校現場の先生方もそういったPRを通してこちらに足を運んでもらう、子供達にも体験してもらってことで入館者数を増やすことも可能ではないかなっていうふうに感じました。大変良い体験をさせていただきましたので、今後とも是非よろしくお願ひしたいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。もうひとつ、どなたか、無ければ一応1、2は、あとその他となっておりますけども、事務局の方でその他提案することありますか。

今日1時間半皆様ご協力いただきましてありがとうございました。これを持ちまして会を閉じたいと思います。ありがとうございました。